

実子と同学年の里子を迎え入れて



(養育里父さん体験談)

【委託までの時間】

里親登録してから委託のお話があるまで6年待ちました。委託を待つ間は、いつでも対応できるように住環境を整えたり、様々な研修を受け、学びを深め、自分の知識を高めて過ごしました。

【委託の打診から受託まで】

里子が実子と同学年でしたので、ぜひ受けたい気持ちはあったのですが、学校も同じになる事を思うと、少し悩みました。しかし、実子に話をしたら「いいんじゃない」と言われ、受けることに決まりました。

その後は、児童相談所で面会をして、受託となりました。受託に向けてDIYをしたり、里子のどんな状況にも対応できるように、働き方も変えました。働き方を変えても、里子の受託に合わせて里親手当があったので、経済的に負担になることはありませんでした。里子を預かることは、責任がとても重くなり、仕事中でも、いつでも里子のことが頭から離れませんでした。

動物との触れ合いが心理的なケアには良いという話もありますので、セラピードッグの役割で犬も飼い始めました。セラピーと思っていましたが、よく吠えるので、今では立派な番犬となっています(笑)



【里子との生活がスタート】

里子は、来たばかりの時は自分の逆境体験を話す事が多くありました。とても大変な経験をしていました。また、買い物に行ったときに「車を止めてくるから待っててね」と言うのと「本当にくる?」と何度も確認するなど、見捨てられ不安も強く感じられました。

そのうち、どこまで自分を心配してくれるのだろうと「頭が痛い、おなかが痛い…等々」たくさんの身体症状を訴えるようにもなりました。自尊心の低さからか、「自分は社会に必要な子なんだ」等と言うこともありました。

その都度、大切な存在であることを伝え続けました。

【実子と里子の関係】

実子は、はじめは里子を受け入れたものの、少しずつ関係が不安定になり、お互いに距離を置くようになりました。カウンセラーに相談することもありました。

しばらくはそのような状況でしたが、数年たち、実子と里子がお互いを理解できるようになって、今は家族同然に過ごしています。一緒に家族旅行にも行っています。

【里子との関わりで大切にしている事】

『得意』を伸ばすことを大切にしています。好きな習い事をしたり、検定に向けて一緒に頑張ったりと、検定の合格・不合格より、それまでのプロセスを大切に関わっています。また、地域の特性を活かした自然体験や、アルバイトの経験も大切にしています。

【養育上心がけてきたこと】

まずは信頼関係を築く事、いろんなことに目をつむりながら関係性を構築することを心がけました。しっかり里子に関心を寄せて注目し、ささいなことも褒めました。朝、自分で起きることができた、宿題をすることが出来たなど、当たり前のことでも、一つひとつ「できたね」と声をかけました。「褒められる」という事を受け入れることができない子でしたが、ある日「もっとほめて」と言うようになったときにはとても嬉しかったのを思い出します。

そして、里子との対話も大事にしました。肝心なことには口を閉ざしてしまうのですが、言葉にならない言葉を聞くようにしました。逆境体験をしてきた子どもは、自分の意見を言えなかったり、自分自身でも分からないことが多いようです。「わからん、知らん、どーでもいい、めんどくさい」などが口癖となってしまいます。そのような中で、意見形成を支援するように関わりました。里子には、素直なところもあったので、育て直しのプロセスができました。

基本的な生活習慣を身に着けることも心がけました。部屋の掃除など”できないわけではないがやらない”ということには、声をかけて一緒にやっています。山歩きや焚き火など自然の体験も大切にしています。

いつでも「自分を大切にできる人になってほしい」という気持ちで関わっています。

【今後について】

これからの心配事として、里子は18歳～20歳で委託解除になるので、自立しなければいけません。まだまだ関係性の構築の時間が必要だけれど、自立に向けての準備もしなければいけない。そんな中で、大きな不安を感じている里子には、心の支えになるように「うちはいつでも帰ってきていい場所である」という事を伝えていきます。

